

令和4年度

消防本部 総務課の方針書

組織名	消防本部 総務課
所属長名	熊谷 浩

1. 組織の使命(ありたい姿)

持てる知識、技術及び資機材を最大限に活用し、市民の負託にこたえる

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、事故、不祥事の発生
- 2、組織活性化のための人材育成
- 3、消防団の消防力向上

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、市民の信頼回復
- 2、人材育成と健康支援
- 3、消防団活動支援

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民の信頼回復
	取組内容	1、安全管理の徹底による公務災害や事故の根絶 2、服務規律の徹底による不祥事の根絶
(2)	実現したい成果	人材育成と健康支援
	取組内容	1、課内で情報共有し総務事務の確実な遂行 2、消防業務に必要な資格取得の推進と研修支援 3、検診やワクチン接種などを推進し健康管理の徹底
(3)	実現したい成果	消防団活動支援
	取組内容	1、消防団の現場活動資機材と個人装備の充実 2、「消防団協力事業所」や「消防団応援の店」事業の推進

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 市民の信頼回復

- ・公務災害や事故、不祥事を根絶するため、消防署と連携しヒヤリハット事例の共有や危険予知トレーニングを実施したが公務災害1件、車両の物損事故2件の発生。

### (2) 人材育成と健康支援

- ・日報を課の共通フォルダで管理し共有を図る。
- ・資格取得は小型クレーン2名、玉掛免許2名が取得、大型自動車免許3名取得予定の内2名が入校。
- ・消防学校関連は初任教育1名、幹部科2名、指導救命士1名、救急救命研修所2名が修了。
- ・職員健康診断(一般検診)は7月～10月で全職員が受診予定。

### (3) 消防団活動支援

- ・資機材・装備品の契約と防火衣更新計画の策定。
- ・市報・ホームページ・かまくらFMで広報実施。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 市民の信頼回復

- ・事故を検証し救急課、警防課、消防署と連携して注意喚起や研修会を開催する。
- ・不祥事を起こさせないための徹底した意識付けの継続。

### (2) 人材育成と健康支援

- ・日報を共有し課内の仕事を把握。
- ・資格取得支援の継続。
- ・研修支援の継続と勉強会の開催。
- ・各種ワクチン接種や深夜業務従事者検診の支援と一般検診再検査の推進。

### (3) 消防団活動支援

- ・資機材・装備品の確実な納入。
- ・市報にて消防団の特集記事を掲載予定。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 市民の信頼回復

- ・車両を破損させる事故が4件発生、指導する側では事故は必ず起こるものと認識し節目節目で注意喚起を継続する。
- ・不祥事0件、発生しないことは当たり前の事であり、起こさせないための意識付けを継続していく必要がある。

### (2) 人材育成と健康支援

- ・総務事務を確実にを行うため、共有フォルダで日報を共有し課内業務の把握に努めた。
- ・資格取得支援では小型クレーン2名、玉掛免許2名が取得、大型自動車免許2名が取得。次年度以降も継続。
- ・研修支援では消防学校関連で予定どおり27名が修了し、修了者による勉強会を開催。
- ・コロナワクチン以外の接種は、順調に完了。コロナワクチンについては、遅延が生じたが予定通り接種が完了した。今後は、医療機関の不測の事態も考慮し早めの接種を心がける必要がある。一般検診、深夜検診とも全員が受診。検診の再検査についても該当者は今年度中に受診予定。

### (3) 消防団活動支援

- ・契約完了の小型ポンプ、小型ポンプ付軽積載車、救助用ボート、被服等の確実な納品に努めた。
- ・「消防団協力事業所」や「消防団応援の店」事業の推進のため、ホームページ・かまくらFMや市報に特集記事を掲載し広報を行った。

# 令和4年度

## 消防本部 予防課の方針書

組織名	消防本部 予防課
所属長名	中川原 宏

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

迅速、的確な業務遂行により市民の負託に応える

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、防火対象物の消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置推進
- 3、事務の効率化と職員の能力向上

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置推進
- 3、事務の効率化と職員の能力向上

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防設備違反の是正
	取組内容	1、防火対象物重大違反の早期把握と違反処理の執行 2、市指定の文化財(横手市増田重要伝統的建造物群保存地区含む)防火意識の向上
(2)	実現したい成果	住宅用火災警報器の設置推進
	取組内容	1、住宅用火災警報器未設置世帯への再調査による設置率の向上 2、住宅用火災警報器設置世帯への機器維持管理広報
(3)	実現したい成果	事務の効率化と職員の能力向上
	取組内容	1、事務処理運用基準に基づいた各署での確実な事務処理 2、職員の能力向上をめざした職員に対する研修会の実施

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 消防設備違反の是正

- ・消防設備の重大違反は、4月1日現在11施設(公表1施設含む)の内、4施設改善、新たに3施設増加(違反対象物10施設)
- ・市指定の文化財の防火意識の向上は、増田重要伝統的建造物群保存地区は、市部局、南分署と最終打ち合わせを行い、立入検査の調整を実施。雄物川地区の市指定4施設は消防設備の設計業者と協議を実施。

### (2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・未回答世帯の再調査については、4月1日現在1013世帯の内492世帯から回答あり、6地区(増田、平鹿、雄物川、大森、山内、大雄)が終了し市全体の設置率は80%であった。
- ・未設置世帯への訪問広報は、4月1日現在で市全体で8948世帯の内441世帯を実施。
- ・通信指令室が行っている座談会の「いきいきサロン」に同行して住宅用火災警報器の設置要望、維持管理の広報を6回74名に実施。
- ・広報として市報に1回掲載する。

### (3) 事務の効率化と職員の能力向上

- ・建築確認申請、消防設備点検報告、防火管理講習受付業務の事務処理を完全に各署に移管し、消防設備検査についても各署で出来るものは単独で実施、問題なく運用している。
- ・消防用設備、危険物施設検査を合同で実施した場合は、若年、経験の少ない職員に対して24回指導。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 消防設備違反の是正

- ・消防設備の重大違反10施設(公表1施設含む)については、ねばり強く指導し、違反処理を執行。
- ・増田重要伝統的建造物群保存地区の立入検査を実施し、消防設備の状況把握と火災予防の推進に努める。雄物川地区の市指定文化財4施設は12月中旬に消防設備設置予定。

### (2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・未回答世帯の再調査は、今年度の終了を目指す。
- ・住宅用火災警報器の設置要望と維持管理については座談会のほか、広報誌、かまくらFM等で広報し、訪問活動については感染症の状況を見極めながら実施する。

### (3) 事務の効率化と職員の能力向上

- ・各署に移管した受付業務については、複数で確認し今後も問題のない業務の実施。
- ・危険物施設、消防用設備検査において現場での指導の継続、火災現場での調査についても、火災現場は多種多様であることから現場での指導を実施していく。特異な火災調査については研修を行い職員のレベル向上を目指す。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 消防設備違反の是正

- ・消防設備の重大違反が16施設の内(新たに違反5施設を含む)12施設が是正となった。また、ホームページで公表されていた重大違反1施設は是正となった。公表されている施設はなし。今後も、違反施設ゼロを目指し、ねばり強く指導をしていく。
- ・増田重要伝統的建造物群保存地区の10施設の立入検査が終了。雄物川地区の市指定4施設は是正となる。

### (2) 住宅用火災警報器の設置推進

- ・住宅用火災警報器の未回答世帯1,013世帯から回答が得られ調査が終了、今後は、普及啓発のため調査結果をもとに未設置世帯への設置推進していく。
- ・設置要望と維持管理については、座談会の「いきいきサロン」に出向して14回171名に説明、市報に4回掲載、チラシを2回発行、かまくらFMにて2回広報した。今後も感染症の状況を見極めながら広報活動を実施していく。

### (3) 事務の効率化と職員の能力向上

- ・各署に移管した受付業務、消防設備検査についても単独でできるものは実施、問題なく運用している。
- ・危険物施設、消防用設備検査を各署と合同で実施した際に、経験の浅い職員に対して60回現場で指導した。火災調査においても同様に、指導しながら調査を実施した。職員に対する研修会は各署計10回実施した。さらなる職員の能力向上のため継続実施していく。

# 令和4年度

## 消防本部 警防課の方針書

組織名	消防本部 警防課
所属長名	中川原 一智

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

持てる知識、技術、装備を使い、災害対応能力を最大限維持し、市民の負託にこたえる

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、安全管理体制の強化と人材育成
- 2、車両及び資機材等の適正な維持管理
- 3、消防団との連携

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、災害対応能力と組織力の向上
- 2、人材育成と安全管理体制の強化
- 3、消防施設整備事業の完全実施

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	災害対応能力と組織力の向上
	取組内容	1、実災害を想定した各種訓練の実施 2、緊急消防援助隊出動体制の強化と資機材の維持管理 3、消防団との連携訓練を実施
(2)	実現したい成果	人材育成と安全管理体制の強化
	取組内容	1、安全管理体制強化に向けた指揮隊運用訓練の実施 2、機関員の計画的育成と資格保有者の技能向上訓練の実施 3、特別救助隊員資格保有者の技能向上訓練の実施
(3)	実現したい成果	消防施設整備事業の完全実施
	取組内容	1、消防署及び消防団の車両、資機材等の更新と維持管理 2、道路拡幅に伴う各種消防施設の移転整備事業 3、消火栓整備事業の実施と維持管理

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 災害対応能力と組織力の向上
  - ・各所属の訓練計画に基づいた各種災害対応訓練を実施
  - ・解体予定の耐火造建物を利用した壁体破壊救出訓練を実施
  - ・解体中の建物を利用した秋田県解体工事業協会との連携訓練を実施
  - ・消防団と連携し救命ボートの操船訓練を実施
- (2) 人材育成と安全管理体制の強化
  - ・各所属の訓練計画に基づいた走行及び揚水訓練を実施
  - ・特殊任務にかかわる特別救助隊員の各種救助訓練の実施
  - ・新規機関員10名を養成
- (3) 消防施設整備事業の完全実施
  - ・消防署車両3台、消防団車両6台、消防団小型ポンプ3台の更新について契約締結
  - ・消防団ポンプ置場2棟建替え、耐震性貯水槽建設2基について契約締結

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 災害対応能力と組織力の向上
  - ・緊急消防援助隊出動に向けた野営訓練の実施
  - ・消防団との合同車両破壊訓練の実施
- (2) 人材育成と安全管理体制の強化
  - ・若年職員を対象とした指揮隊運用訓練の実施
  - ・はしご車機関員の習熟訓練の実施
- (3) 消防施設整備事業の完全実施
  - ・消防署車両3台、消防団車両6台、消防団小型ポンプ3台の更新配備
  - ・消防団ポンプ置場2棟建替え及び、耐震性貯水槽建設2基の完成

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 災害対応能力と組織力の向上
  - ・各所属において訓練計画に基づいた各種災害対応訓練を実施したほか、当本部では初となる解体予定の耐火造建物を利用した壁体破壊救出訓練を2回実施した。
  - ・秋田県解体工事業協会との合同訓練を実施し連携強化を図り、地震災害への対応力と組織力の強化を図った。
  - ・緊急消防援助隊出動に向けた野営訓練はコロナウィルス感染予防のため実施を見送ったが、次年度は実施し更なる対応力の強化を図っていく。
  - ・消防団との連携については、南、西分署管内の消防支団5支団と救命ボート操船訓練を実施したほか、大森支団との合同車両破壊訓練を実施した。次年度も各種訓練を実施し連携強化を図っていく。
- (2) 人材育成と安全管理体制の強化
  - ・指揮隊運用訓練については、横手市での大規模災害を想定した受援シミュレーション訓練を2回実施し、応援隊の受け入れ手順の確認と課題の抽出を行った。次年度も繰り返し訓練を実施していく。
  - ・特殊任務にかかわる特別救助隊員の訓練の一環として毎年行われる全国救助技術大会に、県及び東北代表として2種目6名が出場を果たし大きな成果を上げた。
  - ・次年度も新規特別救助隊員の養成及び各種訓練を継続し、隊員の資質向上と安全管理体制の強化を図っていく。
  - ・車両を運行する機関員の育成については、計画に基づいた走行及び揚水訓練を実施したほか、各種機関員を17名養成した。
  - ・はしご車機関員の習熟訓練を17名実施し技術の向上を図った。次年度以降も継続して訓練及び機関員の養成を行っていく。
- (3) 消防施設整備事業の完全実施
  - ・消防署車両3台、消防団車両6台、消防団小型ポンプ3台全ての更新を完了し運用を開始している。
  - ・耐震性貯水槽は、前年度繰越の横手、雄物川地区の2基と、今年度建設の横手、平鹿地区の2基合わせて4基が完成したほか、消防団ポンプ置場は、横手、雄物川地区の2棟が完成し運用を開始している。
  - ・水道管敷設替え工事に伴う消火栓の更新は9基完了している。次年度も、資材の高騰や物品調達の遅れなど、予想される様々な状況に適切に対応し事業を進めていく。

# 令和4年度

## 消防本部 救急課の方針書

組織名	消防本部 救急課
所属長名	松井 洋悦

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全、確実、迅速な救急活動に努め、市民の負託に応える

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、救急隊員教育の推進
- 2、救急活動における安全対策
- 3、新型コロナウイルス感染症対策

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、救急隊員教育の充実
- 2、救急活動における事故防止
- 3、新型コロナウイルス感染症対策の推進

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	救急隊員教育の充実
	取組内容	1、救急隊員研修計画の見直しと訓練実施 2、効果的な新任救命士認定研修の実施
(2)	実現したい成果	救急活動における事故防止
	取組内容	1、救急車両の交通事故防止対策の徹底 2、救急活動における事故防止対策の徹底
(3)	実現したい成果	新型コロナウイルス感染症対策の推進
	取組内容	1、救急隊員、消防隊員の感染防止対策の徹底 2、感染症関係機関との連絡調整 3、救急資器材の管理徹底

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 救急隊員教育の充実
  - ・救急隊員研修計画に基づき訓練を実施し、進捗状況は救急隊員管理表で管理。
  - ・新任救命士認定研修は、対象者3名が個別訓練、署内訓練を開始した。
- (2) 救急活動における事故防止
  - ・救急車運行訓練(実技)の実施と安全指導を実施。
  - ・各種訓練にて救急活動における事故防止対策訓練を実施。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策の推進
  - ・上期で新型コロナウイルス感染症の救急搬送数(陽性者)は99名であった。
  - ・救急出動の全症例を感染防止衣を着装する体制とし、結果、業務上の感染は確認されていない。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 救急隊員教育の充実
  - ・救急隊員研修は救急隊員管理表を基に訓練を継続する。
  - ・新任救命士認定研修は、今後、総合想定訓練を実施し、現場で活躍できる救急救命士の養成を目指す。
- (2) 救急活動における事故防止
  - ・運行訓練(実技)の継続と安全対策指導の強化。
  - ・救急活動における事故防止対策訓練の継続実施。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策の推進
  - ・救急隊等業務上の感染は確認されていないので、当面は現状対策を維持する。
  - ・国や県の対策が変更になっているが、当消防本部は基本となる行動計画・業務継続計画のもとに業務を遂行する。
  - ・関係機関との情報共有に務め、救急隊員等職員の負担軽減を目指しながらも、市民の負託に応える。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 救急隊員教育の充実
  - ・救急隊員の研修については、救急隊員教育管理票を活用して進捗状況を随時チェックしながら訓練指導を行った。その結果、訓練回数並びに訓練時間ともに目標値を達成している。今後は、訓練指導の中心となっている指導救命士の役割をさらに強化し、救急隊員教育の充実強化につなげていきたい。
  - ・救急救命士国家試験に合格した3名を対象とし、総合想定訓練を計3回実施した。更に1回訓練を実施した後、新年度には認定する見込みとなっている。
- (2) 救急活動における事故防止
  - ・ヒヤリハット事例の共有や、危険予知トレーニングなどの安全教育を継続して実施していく。
  - ・今後も、各種研修会や活動訓練を通じて救急活動における安全対策の強化を図る。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策の推進
  - ・新型コロナウイルス感染症が確認されて以降、全ての救急出動において感染防止衣、マスク及びゴーグル等の着用を徹底すると共に、搬送後に救急車内の消毒を入念に行うなど対策を強化してきた結果、救急業務に起因する隊員の感染は確認されていない。
  - ・また、第8波と呼ばれる感染拡大期間(令和4年11月頃から令和5年1月頃まで)では、各医療機関において受入制限が行われ、搬送時間が長時間におよび傷病者と救急隊員双方に負担がかかるケースが増えていった。この経験を生かし、今後は医療機関及びその他の関係機関と連絡調整をさらに密にし、安心して安定した救急搬送を提供していきたい。



# 令和4年度

## 消防本部 通信指令室の方針書

組織名	消防本部 通信指令室
所属長名	高田 俊之

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

「助けを求める声」に誠実に寄り添い、的確な119番対応と効果的な部隊運用を行い、私たちのまちを護ります。

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、災害通報対応とシステム運用技術の向上
- 2、通信指令施設の安定稼働と充実強化
- 3、多様化する災害通報等への対応

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、市民から信頼される通信指令員の育成
- 2、高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
- 3、わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民から信頼される通信指令員の育成
	取組内容	1、システム停止訓練や外国人対応など各種訓練によるシステムの精通と対応力向上 2、119番通報対応におけるコミュニケーションスキルの向上 3、応急手当口頭指導要領、緊急度判定要領の向上
(2)	実現したい成果	高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
	取組内容	1、通信指令システムや消防無線システムの適切な保守管理 2、高機能消防指令センター更新に向けた具体的内容の決定 3、地図情報などシステム情報の適切なアップデート
(3)	実現したい成果	わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
	取組内容	1、高齢者や外国人など市民に対するわかりやすい119番通報のかけ方の啓発 2、障がい者に対する緊急通報システムの啓発

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民から信頼される通信指令員の育成
  - ・各種計画訓練の毎日実施と外国人対応訓練の計画
  - ・県主催通信指令員研修への参加
  - ・各種情報、対応要領の可視化による共有、引継の徹底
  - ・市民の心肺蘇生実施率76%、市民蘇生3件
  - ・救急通報対応要領向上のための所属指導救命士、救急救命士資格者による指令員への助言と教育の継続
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
  - ・指令・無線システムの年次点検、各装置の更新業務委託の完了
  - ・携帯電話事業者の通信障害を踏まえた「システム障害対応計画」の改訂
  - ・高機能消防指令センター更新の方針決定
  - ・住宅調査等による地図情報の更新
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
  - ・「いきいきサロン」による高齢者へのわかりやすい通報要領の啓発(6回74名参加)
  - ・新規障がい者手帳交付者等に対するNET119緊急通報システムの希望調査の実施
  - ・「高齢者福祉施設等における救急要請ガイドブック」の素案作成

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 市民から信頼される通信指令員の育成
  - ・各種計画訓練の継続と外国人対応訓練の実施
  - ・県主催通信指令員研修受講者によるフィードバック教育の実施
  - ・確実な情報共有、引継の継続
  - ・所属指導救命士、救急救命士資格者による指令員へのOJT継続
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
  - ・各種システムの適切な保守管理と運用の継続
  - ・高機能消防指令センター実施設計に向けた仕様の作成
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
  - ・「いきいきサロン」による高齢者への通報要領の啓発推進(11回開催予定)
  - ・NET119緊急通報システムの利用希望者に対する個別説明の実施
  - ・「高齢者福祉施設等における救急要請ガイドブック」による事故防止、通報要領の啓発

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民から信頼される通信指令員の育成
  - ・毎日訓練、所属救急救命士のOJTによる教育指導、外国人対応訓練、県主催の通信指令員研修修了者による講習会など年間を通じて教育指導と確実な情報共有を行い、応急手当口頭指導、緊急度判定要領をはじめ多様化する災害対応のレベルアップにつながっている。
  - ・引き続き、教育指導の充実と情報共有の徹底を図り、市民から信頼される通信指令員を育成していく必要がある。
- (2) 高機能消防指令センターの適切な保守管理とシステム更新の推進
  - ・定期の自主点検、保守管理契約による障害対応、機器の更新、住宅調査による地図の更新などを通じて、各システムの適切な運用を継続したほか、障害発生時の対応計画についても随時整理し、各所属と一体的な対応につながっている。
  - ・高機能消防指令センターの更新について、プロジェクトチームによる検討を重ね、令和5年度当初予算に実施設計業務委託費を計上した。
  - ・引き続き、適切なシステム管理とともに、高機能消防指令センター更新事業については、将来に向け安定した消防指令体制と消防力強化につながるよう事業を進めていく必要がある。
- (3) わかりやすい119番通報のかけ方の啓発推進
  - ・高齢者が参加する「いきいきサロン」に出向(14回171名参加)し、わかりやすい119番通報について広報したほか、聴覚等の障がい者に対して提供しているNET119緊急通報システムについては、個別の利用希望調査や市報、ホームページにより広報を実施し啓発を推進した。
  - ・高齢者福祉施設でできる病気やけがの予防や119番通報・救急車到着までの応急手当など救急対応を円滑に行うためのポイントを取りまとめた「高齢者福祉施設における救急要請ガイドブック」と「救急情報連絡シート」を新たに作成し、関係機関に送付するとともにホームページに掲載し、高齢者福祉施設からの119番通報要領等の啓発を図った。
  - ・引き続き、高齢者、障がい者、外国人など多様な119番通報について、わかりやすく通報要領を啓発し、円滑な通報と初動体制の迅速化につなげていく必要がある。

# 令和4年度

## 消防署の方針書

組織名	消防署
所属長名	松井 正一

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

市民の信頼と期待に応える消防職員

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場対応能力の向上
- 2、公務災害や事故、不祥事の根絶
- 3、働きやすい執務環境の整備

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、現場対応能力の向上
- 2、人材育成と働きやすい執務環境の整備
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	現場対応能力の向上
	取組内容	1、消防署・分署合同訓練や各種訓練の実施 2、安全管理の徹底による公務災害や事故の根絶 3、心身の健康障害の予防推進(惨事ストレス対応、健康診断)
(2)	実現したい成果	人材育成と働きやすい執務環境の整備
	取組内容	1、若手職員の育成と情報共有、報連相の徹底 2、公務員としての自覚保持、法令順守の徹底による不祥事の根絶 3、挨拶の励行や整理整頓など、明るく、清潔で気持ち良い職場づくり
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、火災予防の推進(住宅用火災警報器の普及啓発と消防法令違反の是正) 2、消防団との連携体制の確立

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 現場対応能力の向上
  - ・消防署、分署合同の消防訓練を4回実施。
  - ・公務災害、事故を根絶するため、ヒヤリハット事例の共有、危険予知トレーニング、安全教育を実施。公務災害1件、車両の物損事故2件発生
  - ・惨事ストレス対応では、横手市消防本部惨事ストレス対策要綱及び対応マニュアルに則りストレス対策を実施。健康管理のための健康診断は、10月中旬に全職員が終了予定。
- (2) 人材育成と働きやすい執務環境の整備
  - ・各所属の訓練月間予定表に基づき各種消防訓練を122回、救急訓練を112回実施。
  - ・不祥事根絶のため、全国の不祥事事例を定期的に配信、ミーティング等で不祥事防止の重要性について周知。
  - ・明るく清潔な職場環境づくりのため、率先した挨拶の励行と職場の整理整頓を実施。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・住宅用火災警報器の普及啓発のため、未回答世帯1,013世帯の内、再調査を492世帯実施。未設置世帯8,948世帯の内、441世帯の設置促進指導を実施。
  - ・防火対象物については、217施設の立入検査を実施。
  - ・消防団との連携について、火災予防運動、水防講習会、消防操法の指導、救命ボート講習を実施。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 現場対応能力の向上
  - ・各種現場を想定した応用的な訓練を取り入れ、現場対応能力の更なる向上を図る。
  - ・公務災害、事故を根絶するため、ヒヤリハット事例の共有、危険予知トレーニング、訓練を通じての安全教育を継続。
  - ・惨事ストレス対策について、ミーティングと情報共有を図り、惨事ストレス「ゼロ」を目指す。また、健康診断で再検査となった職員へ受診を促し、心身の健康管理を図る。
- (2) 人材育成と働きやすい執務環境の整備
  - ・若手職員育成のため、各種現場を想定した訓練を継続し、判断力、対応力の向上を図る。
  - ・不祥事根絶のため、ミーティング等の機会に不祥事事例について情報共有を図る。
  - ・明るく、清潔な職場環境づくりのため、挨拶の励行と職場の整理整頓を継続する。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・住宅用火災警報器の設置、維持状況について調査を継続する。また、各所属の年間計画に基づき防火対象物の立入検査を行い、違反の是正を図る。
  - ・消防団との連携について、若手団員の教養訓練や機関員養成訓練、火災予防運動で連携体制の強化を図る。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 現場対応能力の向上
  - ・消防署、分署合同の消防訓練を上期4回、下期3回実施し、現場対応能力の向上が図られた。今後も継続的に応用訓練を取り入れ能力と連携体制の強化を図る。
  - ・公務災害、事故を根絶するため、副署長による各署の訓練指導を定期的に実施するとともに、ヒヤリハット事例の共有、危険予知トレーニング、安全教育を実施したが、公務災害1件、車両の物損事故4件発生。今後も危機意識を持ち、公務災害と事故防止に取り組む。
  - ・惨事ストレス対応では、横手市消防本部惨事ストレス対策要綱及び対応マニュアルに則りストレス対策を実施し、惨事ストレスによる体調不良者は発生していない。今後も同様にストレスの未然防止に取り組む。
  - ・健康管理のための健康診断は、10月中旬に職員全員が終了。再検査となった職員については受診を促し、心身の健康管理を図る。
- (2) 人材育成と働きやすい執務環境の整備
  - ・若手職員のスキルアップを目的として、訓練月間予定表に基づき各種消防訓練を219回、救急訓練を199回実施し、スキルアップが図られた。また、情報共有と報連相の徹底により、職員間の連携強化が図られた。今後も継続していく。
  - ・不祥事根絶のため、全国の不祥事事例を職員へ配信し、ミーティング等で不祥事について考える機会を設け、公務員倫理の醸成に努めた結果、不祥事はなかった。今後も公務員倫理の醸成を図る。
  - ・明るく清潔な職場環境づくりのため、率先した挨拶の励行と、職場の整理整頓を実施。今後も継続していく。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・住宅用火災警報器の普及啓発のため、未回答世帯1,013世帯の調査終了。未設置世帯8,948世帯の内、816世帯の設置促進指導を実施し、459世帯の設置を確認する。今後も継続して実施する。防火対象物については、年間計画に基づき502施設の立入検査を実施。消防設備の重大違反については16施設の内、12施設を是正した。今後も是正指導を継続して実施し、火災予防に取り組む。
  - ・消防団との連携について、上期は春の火災予防運動、水防講習会、消防操法の指導、救命ボート講習を実施。下期は秋の火災予防運動週間に4支団(横手、平鹿、十文字、大雄)の放水訓練、若手団員の教育訓練と機関員講習、大森地区での冬季防災訓練を実施し、消防団との連携が図られた。また、冬季の火災に備え、全分団の消防施設調査を実施し、施設の維持、管理に努めた。今後も継続し、災害に強いまちづくりの推進を図る。

# 令和4年度

## 消防署 南分署の方針書

組織名	消防署 南分署
所属長名	菅原 政人

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全、確実、迅速な業務遂行により、市民の信頼と期待に応える

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場対応能力向上のための人材育成
- 2、公務災害、重大事故を根絶するための安全管理体制の強化
- 3、不祥事の根絶

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、能力向上のための人材育成
- 2、確実な業務の遂行
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	能力向上のための人材育成
	取組内容	1、若手職員の育成と中堅職員の判断力、対応力、指導力の向上 2、公務員としての自覚保持と法令順守による不祥事の根絶 3、職場環境の向上を図るため5S励行・・・整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣づけ)
(2)	実現したい成果	確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底による公務災害の根絶 2、確実な車両運用による無事故、無違反 3、職務上抱える虞のある惨事ストレスの対応
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防法令重大違反防火対象物の是正 2、住宅用火災警報器の普及啓発と住民の防災意識向上 3、消防団、地域局との連携体制の確立と強化

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 能力向上のための人材育成
  - ・若手職員の育成と中堅職員の能力向上を図るため、訓練安全計画に基づき146回訓練を実施。
  - ・CAFS装置付消防ポンプ自動車機関員を5名が取得済み。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資機材の適切な管理運用に努めている。
  - ・不祥事根絶のため、朝のミーティング等の機会に話し合いの場を設けた。
  - ・職場環境の安全と質の向上を図るため5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)励行中。
- (2) 確実な業務の遂行
  - ・公務災害と事故防止のため、安全管理教育とヒヤリハット事例の共有を実施。車両の物損事故1件発生
  - ・事案完了後に隊ミーティング等を行うとともに、日常的に声掛けを行い、惨事ストレスの早期把握に努めた。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・重大違反対象物の消防法令違反、4対象物に対し、是正に向けた指導を実施。
  - ・住宅用火災警報器の未設置世帯調査について、増田地区89世帯実施し19世帯の設置を確認。十文字地区97世帯実施し63世帯の設置を確認。
  - ・地区防災訓練、消防訓練大会は一部でしか実施されていないが、支団合同での水防講習や救命ボート講習を実施。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 能力向上のための人材育成
  - ・若手職員の育成と中堅職員の能力向上を図るため、訓練を継続して実施する。
  - ・機関員育成について、B級(中型車)機関員1名、C級(普通車)機関員1名を予定。
  - ・不祥事の根絶に向け、自覚保持のための話し合いの機会を多く設ける。
  - ・職場環境の安全と質の向上を図るため、今後も5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を継続する。
- (2) 確実な業務の遂行
  - ・公務災害の根絶に向けた安全管理の徹底を継続し訓練を実施する。
  - ・無事故、無違反のため、安全管理事項の再確認と徹底を図るとともに、ヒヤリハット事例等の共有を実施する。
  - ・惨事ストレスの早期発見と緩和が行えるようにミーティングと情報共有を継続して行う。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・重大違反対象物の是正に向けた指導を継続する。
  - ・住宅用火災警報器の普及啓発と防災意識向上のため、設置調査と指導を継続して実施する。
  - ・消防団、地域局との連携強化を図るため、今後も密な連絡体制を維持する。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 能力向上のための人材育成
  - ・若手職員の育成と中堅職員の能力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき215回訓練を実施し、能力の向上が図られた。今後も、継続して訓練を実施する。
  - ・機関員の資格取得について、A級CAFS装置付消防ポンプ自動車(大型車)機関員5名取得、B級(中型車)機関員1名取得、C級(普通車)機関員1名取得。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資機材の適切な管理運用にあたる。
  - ・不祥事根絶のため、朝のミーティング、コンプライアンス等の機会に話し合いの場を設けており、現時点で不祥事は発生していない。今後も話し合いの機会を多く設けることで根絶を図る。
  - ・職場環境の安全と質の向上を図るため5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を励行。今後も継続していく。
- (2) 確実な業務の遂行
  - ・災害現場及び訓練時における安全管理事項の徹底やヒヤリハット事例を共有し公務災害は発生していない。今後も安全管理を徹底し、注意事項を伝達するとともに事象事例を共有することで根絶を図る。
  - ・車両の物損事故2件発生。今後は運転中に限らず停車後も安全管理の再確認と徹底、視界不良時における慎重な車両運用を行うよう教育と訓練を継続する。
  - ・出勤後に隊ミーティングを行うとともに、日常的に声掛けを行うことで惨事ストレスの発見、緩和に努め、ストレスによる体調不良者は発生していない。惨事ストレスの早期発見と早期対応を図れるようミーティングと情報共有を今後も継続して行う。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・火災による被害軽減を図るため、重大違反対象物の消防法令違反について5件の内1件是正、4件について今後も指導を継続する。
  - ・住宅用火災警報器の未設置世帯調査について、増田地区145世帯実施し46世帯の設置を確認。十文字地区106世帯実施し74世帯の設置を確認。未設置世帯に対する指導を継続する。
  - ・消防団、地域局との連携強化について、消防訓練大会、支団合同の各種講習会実施等により連携強化が図られた。今後も各種講習会や合同訓練の実施、連絡体制と情報共有を維持する。

令和4年度

## 消防署 西分署の方針書

組織名	消防署 西分署
所属長名	佐々木 建夫

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全、確実、迅速な職務遂行で、市民の負託にこたえる

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、信頼回復
- 2、現場対応能力向上のための人材育成
- 3、公務災害や重大事故を根絶するための安全管理体制の強化

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、消防行政への信頼回復
- 2、安全確実な業務の遂行
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防行政への信頼回復
	取組内容	1、コンプライアンス意識の向上 2、消防職員としての自覚保持とハラスメントの防止 3、節度と調和、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の励行
(2)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知能力向上で公務災害を根絶 2、職員の判断力、対応力、指導力の向上と育成 3、機関員の養成と、安全、確実な車両運用の徹底 4、職務遂行上抱える虞のある惨事ストレスの早期把握と対応
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、消防団、地域局との連携強化 2、防火対象物消防用設備等の違反是正 3、火災被害の軽減を図るため住宅用火災警報器の普及啓発

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1) 消防行政への信頼回復

- ・ヒヤリハット及びコンプライアンスミーティングをとおして意識の向上を図った。
- ・職場内の調和や道徳的に「やられて嫌なことをしない」を説き、貸与品は「折り目のある清潔な服装」とするよう指導した。

### (2) 安全確実な業務の遂行

- ・訓練前の注意事項伝達、訓練中の安全管理事項伝達、訓練後の検討事項伝達により、公務災害の根絶を図った。
- ・ヒヤリハット事例や他の消防機関の事故事例を共有、検討するとともに、訓練を継続し車両運用技能を高めた。  
車両の物損事故1件発生
- ・出動後の隊ミーティングと日常的な声掛けで、惨事ストレスの早期把握に努めた。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・雄物川地域で横手市土砂災害訓練、大森地域で横手市総合防災訓練と駆付け放水訓練、大雄地域で地区防災訓練、3地区合同で水防訓練を実施。また各地域局・消防支団とともに消防操法訓練、水防講習会を実施。
- ・防火対象物消防用設備等の違反是正について、重大違反防火対象物4棟の違反是正に向け対応中。今年度は正の見込み。
- ・住宅用火災警報器の未設置世帯調査を実施。雄物川地区17世帯、大森地区35世帯、大雄地区41世帯の内4世帯の設置を確認。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1) 消防行政への信頼回復

- ・上期と同様に、コンプライアンス意識の向上と消防職員としての自覚保持、ハラスメントの防止に取り組む。
- ・節度と調和、5Sを励行することで、市民に不快感を与えないよう取り組む。

### (2) 安全確実な業務の遂行

- ・現場での対応力や安全管理向上を図り、様々な状況を想定しての訓練を継続する。また、適正な車両運用と資器材管理ができる機関員を育成し、下期は公用車での事故ゼロを目指す。
- ・冬季は危険要因が増加するため、今まで以上に慎重な車両運用が行えるようヒヤリハットの対策を共有し指導、訓練を継続する。
- ・惨事ストレス対策について、早期発見と早期対応ができるよう、小隊ミーティングと情報共有を継続して行う。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・消防団の放水訓練や、車載救助資器材での車両破壊救出訓練、洪水時対応訓練等を地域局や住民も含めて行い、関係団体との密な連携体制を向上させる。
- ・重大違反防火対象物への是正指導を継続し、今年度中に重大違反防火対象物ゼロを目指す。
- ・住宅用火災警報器の普及啓発について、新型コロナウイルス感染防止を考慮しつつ各家庭を訪問し調査設置指導並びに設置率向上に努める。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1) 消防行政への信頼回復

- ・消防職員として衣服を清潔にし、身だしなみを整えることから見直し、ミーティングやコンプライアンス等で過去事例について情報共有やハラスメントの防止を図り、ハラスメント、不祥事はなかった。今後も継続していく。

### (2) 安全確実な業務の遂行

- ・若手職員の現場対応力向上と隊長級職員の指導力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき安全管理を徹底して合計205回の訓練を実施し、職員の判断力、対応力、指導力の向上と育成が図られた。また、事後ミーティングにより活動危険の共有をはかり、危険予知能力を高めたことにより公務災害は発生していない。今後も、現場でのスムーズな活動と公務災害根絶を目標に、対応力の向上を図るため、継続して訓練を実施する。
- ・機関員としての専門知識及び技能を磨き、A級(大型車)機関員3名を育成した。今後も適正な車両運用管理ができる機関員を育成するため、継続して訓練を行い、機関員としての技術の向上を図る。
- ・車両の物損事故が2件発生したが、事故後直ちに検討会を実施し今後の事故防止を目指す体制づくりに努めた。今後も危機意識を高く持ち、事故防止を図る。
- ・惨事ストレスを抱えている職員は確認されていない。今後も惨事ストレスの早期発見を図るため、小隊ミーティングと情報共有を行う。

### (3) 災害に強いまちづくり

- ・雄物川地域で横手市土砂災害訓練、洪水時対応訓練、大森地域で横手市総合防災訓練、横手市冬季防災訓練、駆け付け防災訓練、羽志別神社防災訓練、車両破壊訓練、大雄地域で地区防災訓練、3地区合同で水防訓練を実施し、市民や消防団及び関係機関との「自助」「共助」「公助」それぞれの連携強化が図られた。今後も訓練等を通じて更なる連携強化を図る。
- ・4件の防火対象物の重大違反をすべて解消した。今後も法令違反については、継続的に指導を行う。
- ・住宅用火災警報器の設置率について、大雄地域で1.8ポイント向上し78.2ポイントとしたが、雄物川地域、大森地域は横ばいである。今後も継続し設置指導を行っていく。



# 令和4年度

## 消防署 平鹿分署の方針書

組織名	消防署 平鹿分署
所属長名	佐藤 正樹

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全管理を徹底し、市民の信頼と期待に応える消防職員

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場活動における安全管理能力の向上
- 2、公務災害や事故、不祥事の根絶
- 3、働きやすい執務環境の整備

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
- 2、働きやすい執務環境の整備と安全確実な業務の遂行
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
	取組内容	1、若年職員の教育訓練、新規機関員養成 2、救急隊員のスキルアップ 3、安全管理の徹底による公務災害や事故の根絶
(2)	実現したい成果	働きやすい執務環境の整備と安全確実な業務の遂行
	取組内容	1、職員間での情報共有、安全管理の徹底及び調査報告等の期限厳守 2、職員の健康管理、ハラスメント防止、不祥事の根絶 3、ワークライフバランスの充実と取り組みによるパフォーマンスの向上
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、住宅用火災警報器の普及啓発、消防設備重大違反対象物の是正 2、無水利地区を中心とした、自然水利の再検証 3、消防団との連携体制の確立

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

### (1)様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成

- ・若手職員の教育訓練として災害対応訓練を30回実施。
- ・新規機関員養成として車両運用訓練を45回実施。
- ・新任救命士のスキルアップを含めた救急隊員訓練、救急合同訓練による隊員平準化訓練を49回実施。
- ・安全管理の徹底を図るため火災想定訓練、救助想定訓練、救急活動訓練、予防業務全般の座学など実施。
- ・公用車物損事故防止を図るため、安全運行、車両誘導訓練(月4回実施)を強化。

### (2)働きやすい執務環境の整備と安全確実な業務の遂行

- ・期限のある調査報告事務の一覧表を作成し、全職員での情報共有を図りチェック体制を強化。
- ・安全管理を徹底するため、毎日のミーティング時にヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを実施。
- ・庁舎内の定期的な消毒を実施し、感染防止対策及び健康管理を徹底。
- ・ハラスメント、不祥事を根絶するため、ミーティング時に全国の事例について検討し、共通認識として共有。
- ・非番日や休暇を活用し体調管理に努め、長期休暇者・公務災害ゼロを達成。

### (3)災害に強いまちづくり

- ・地域局、消防団、民生委員と連携し、住宅用火災警報器設置促進の広報20回、取り付けサポート2回実施。
- ・粘り強い指導により、令和4年4月現在4施設あった重大違反防火対象物の内、3施設の法令違反を是正。
- ・自然水利の定期確認、公設水利の現状を関係機関と共有し、対応についての連携を強化。
- ・火災多発期に分署及び消防団による警戒巡回の実施。並びに焼却行為に対する指導を強化。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### (1)様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成

- ・特別救助隊員養成・・・3名。新規機関員養成・・・B級1名、C級2名。
- ・今年度の救急合同訓練を控えた職員への指導、及び訓練の充実を図る。
- ・訓練や火災検討会、災害事例を通し、情報共有、安全管理の徹底を図る。

### (2)働きやすい執務環境の整備と安全確実な業務の遂行

- ・PC保存データの整理を行い、業務内容の共有・情報管理を徹底。調査報告等の期限厳守の継続。
- ・ヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを継続実施。
- ・訓練前の資器材、施設の点検、訓練後のフィードバックにて安全管理の徹底と再確認の徹底。
- ・職員の健康維持のため、庁舎内の定期消毒、感染防止対策の徹底を継続。
- ・ハラスメント、不祥事根絶のため、事例の検討と情報共有を継続。
- ・適正な休暇取得の推進及び、心身の健康バランス管理の徹底。

### (3)災害に強いまちづくり

- ・住警器設置状況を精査し、効果的な広報にて設置率向上を目指す。
- ・重大違反防火対象物の法令違反是正に向けた指導を継続する。
- ・国営水路取水停止時の対応として、巡邏計画及び戦術の再検討を実施。
- ・自然水利、公設水利の現状を消防団をはじめとする関係機関と共有。更なる連携強化を目指す。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### (1)様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成

- ・新規特別救助隊員養成として、今年度3名が資格認定研修を受講したが認定には至らず。来年度2名が資格認定研修を受講するため、認定に向け訓練指導を継続する。  
新規機関員養成としてB級(中型車)機関員1名、C級(普通車)機関員2名が認定。今後も認定者への適正な車両運用についての訓練指導を継続するとともに、新規養成者に向けての指導教育を実施する。
- ・今年度、救急救命士1名が新任救命士総合想定訓練を修了し、救急現場活動におけるスキルアップが図られた。また、救急隊員平準化訓練の継続により、所属職員全員のスキルアップが図られた。今後も継続して実施する。
- ・ヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを継続することで公務災害、事故0件を達成。今後も継続する。

### (2)働きやすい執務環境の整備と安全確実な業務の遂行

- ・PC保存データの整理を行い情報の管理と共有を徹底し、安全で迅速な作業が図られた。  
安全管理の徹底と再確認の徹底を図り、現場活動における安全管理の意識向上が認められた。  
安全運行、車両誘導訓練、交通事故防止のミーティングを強化し再発防止が図られた。今後も安全確実に業務を遂行する。
- ・体調管理、庁舎内の定期消毒を実施し感染防止対策を徹底。職場内感染防止に効果が認められた。  
ハラスメント、不祥事はなかった。今後も働きやすい環境の整備に努めるとともに不祥事等の根絶を図る。
- ・適正な休暇取得と体調管理の徹底により、他署からの補充勤務が減少するとともに、体調不良による長期休暇者の防止が図られた。今後も継続する。

### (3)災害に強いまちづくり

- ・住宅用火災警報器の設置率向上に向け調査数285件、設置推進を図るためチラシ配布による広報を実施。  
新型コロナウイルス感染拡大に伴い調査数は減少したものの、今後も感染状況に注視しながら、継続的に設置調査及び指導、広報活動を実施する必要がある。
- ・重大違反防火対象物の法令違反は正に向けた指導を継続し、4件は正した。違反は正は完了。  
今後新たに発覚された際も、早期違反は正に向け粘り強く継続指導を実施する。
- ・国営水路取水停止時の対応として、巡邏計画及び戦術の再検証を実施した。今後も継続して実施する。
- ・火災多発期に消防団との連携による警戒巡回の実施及び焼却行為に対する指導を強化したことにより、昨年度より火災発生件数の減少が図られた。今後も消防団をはじめとする関係機関との更なる連携強化を目指す。

令和4年度

## 消防署 山内分署の方針書

組織名	消防署 山内分署
所属長名	佐々木 馨

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

安全・確実・迅速な災害対応で、市民の信頼と期待に応える消防職員

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場での安全確実な即応力の向上
- 2、公務災害や各種事故・不祥事の根絶
- 3、働きやすい執務環境の整備

### 3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

### 4. 今年度の方針

- 1、各種現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
- 2、心身共に充実した職場環境の整備と市民への適正な接遇
- 3、災害に強いまちづくり

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	各種現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
	取組内容	1、若年職員の育成と中堅職員を対象とした隊長級職員の育成 2、各種訓練の継続による消防力・応用力の強化及び絶対的なチームワークの構築 3、安全管理の徹底と危険予知力の向上による公務災害の根絶
(2)	実現したい成果	心身共に充実した職場環境の整備と市民への適正な接遇
	取組内容	1、横手市職員としての倫理保持の徹底と市民の目線に立った業務の遂行 2、明るく、清潔な職場づくり(ハラスメントの防止・挨拶の励行・整理整頓) 3、ワークライフバランスの実現と健康管理の推進
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、住宅用火災警報器の普及啓発と消防法令違反の是正による火災予防の推進 2、消防団、地域局との連携強化 3、施設・資機材の適正な維持管理

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 各種現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
  - ・訓練は中堅職員が隊長級の立ち位置、若年職員には基本的知識技術の習得を目的として教養訓練を計153回実施。
  - ・各種訓練に際し、チームワーク強化を重点に、基本技術の習得、トラブルシューティング等の応用力向上を図った。
  - ・公務災害根絶のため、毎朝のヒヤリハット事案検討、KYTトレーニング、訓練後、災害終了後の検討会を実施。
- (2) 心身共に充実した職場環境の整備と市民への適正な接遇
  - ・公私に渡り、横手市職員としての自覚を持ち、市民の目線に立って対応した。また、不祥事根絶対策として、常に関係情報を収集し、全員で防止策についてミーティングを実施した。
  - ・挨拶の励行や整理整頓により、明るく清潔な職場づくりに努めた。
  - ・心身ともに健康な状態を維持するため、休暇を取得しやすい環境づくりに努めた。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・住宅用火災警報器設置率向上に向けて、53件の訪問調査を実施し24件の新規設置を確認。また、防火対象物に対して定期的に立入検査を実施。
  - ・消防団、地域局との連携強化のため、合同訓練を1回実施。
  - ・資器材については管理簿を基に定期的に管理状況を確認し、適正な整備、保管を実施。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 各種現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
  - ・中堅職員の隊長級育成、若年職員の基礎知識、技術の継続的な習得と、応用訓練にて更なるスキルの向上を図る。
  - ・訓練の種類を増やし活動要領に幅を持たせ、円滑、迅速確実な現場活動を図る。
  - ・ヒヤリハットやKYTトレーニングを継続し、隊員全員の安全管理徹底と危険予知力向上を図り、事故と公務災害ゼロを継続する。
- (2) 心身共に充実した職場環境の整備と市民への適正な接遇
  - ・市民の目線に立ったスタンスでの活動を継続し、情報収集やコンプライアンスミーティングを通じて、不祥事根絶を継続していく。
  - ・働きやすい職場づくりに全員で取り組む姿勢を継続させ、仕事の更なる効率化を図る。
  - ・健康管理に職場全体が注意を払い、個人の心身の健康維持に繋げ、健全な職場環境の構築を継続する。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・住宅用火災警報器設置率向上については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら実施する。また、防火対象物の立入検査を定期的に実施し、細やかな指導を行う。
  - ・消防団、地域局との連携強化のため合同訓練を継続するとともに、火災予防警戒巡回等により市民の防火意識の高揚を図る。
  - ・資器材や車両管理について、確実な点検を行うことで小さな異変を見逃さず、故障防止を図る。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 各種現場での安全確実な即応力の向上と人材育成
  - ・各種訓練において、中堅職員は隊長級の役割を見据え、若年職員に対しては基本を確実に身に付けることに主眼を置いて実施した。実施回数は合計323回であり、それぞれの立場で確かなスキルアップが自覚出来ている。今後も継続して研鑽を重ねる。
  - ・各種訓練は、実災害での活動を想定した訓練を中心に進めることでチームワーク強化を図った。また、予期せぬトラブルを想定した応用訓練を取り入れることで、自隊の安全確保、迅速、確実な活動への自信へ繋がっている。今後も応用力とチームワークの強化を図るため、訓練を継続する。
  - ・毎朝と各種訓練後、災害対応後に実施しているヒヤリハットを通じ、各自の安全管理能力及び危険予知能力の向上が図られた。これにより公務災害、各種事故ゼロを継続している。今後も危険に対するアンテナを高く持ち、公務災害の防止に取り組む。
- (2) 心身共に充実した職場環境の整備と市民への適正な接遇
  - ・横手市職員としての自覚を忘れず、市民の目線に立った対応を基本として活動現場や来庁者等に対する適正な接遇を心掛けたことで接遇上のトラブル発生は無い。今後も朝のミーティング及びアルコールチェック、免許証チェックを通じて不祥事の根絶を図る。
  - ・各自が意識的に挨拶の励行と職場の清掃・整頓を徹底し、心身充実の職場環境が構築され、ハラスメント防止にも繋がった。今後も継続していく。
  - ・各自が日常的に自己の健康管理に留意している。全員が年間5日以上以上の休暇を取得し心身の休息を図った。また検診における再検診受診率100%達成の見込み。今後も健康管理の徹底を継続する。
- (3) 災害に強いまちづくり
  - ・火災予防警戒巡回を71回実施した。また、住宅用火災警報器設置率向上に向けて、117件の訪問調査を実施し48件の新規設置を確認。防火対象物立入検査においては、重大違反を1件寛知するも、年度内に改善の見込みである。今後も継続して火災予防の推進を図る。
  - ・消防団、地域局との合同訓練は、コロナ禍の影響もあり1回にとどまった。今後は状況を見つつ回数増加と一層の連携強化を図る。
  - ・使用資器材及び車両の適正な管理、点検整備の実施により、故障や不具合の防止が図られたとともに、各種訓練、現場活動もトラブル無く対応した。各種資器材は活動上不可欠であるため、適正な管理、点検整備を継続する。